



調布市は、令和7年4月1日に市制施行70周年を迎えました

市報

ちようふ



令和7年(2025年)

No.1789

5/20

CONTENTS(主な内容)

調布駅前広場公衆トイレをリニューアル	3
神代出張所の暫定移転	3
児童に関する手当・医療費助成制度	4
災害に強いまちを目指して～建物の耐震化を～	8・9
しえいくはんず2025	10

あなたが今話している相手は 本物の警察官ですか？

警察官をかたる詐欺で若者も被害に

どのような手口であなたを狙ってくるのか……詳細は2面をチェック

調布市総合防災安全課 ☎042-481-7547

手をつなぐ樹 463

気がつけば半世紀

昭和51(1976)年に大学を出て就職した職場の所在は虎ノ門だった。その年だったと思うが、麺類が大好物だった父が、屋敷のときにやってくる、虎ノ門からほど近い西新橋の蕎麦屋に誘われた。

田舎風のごつごつとした舌触りの十割蕎麦。それに、これも腰の強いうどんを組み合わせ合わせた合盛りが名物。加えて濃い目の出汁が絶品のけんちん汁。合盛りが盛んになるとオーダーする客が多い店だった。

当時父の勤め先は市ヶ谷だったが、私の職場の近くで仕事があるときなどに連絡があつて、たまに昼の時間を共に過ごした父はあまり酒を飲まなかった。で居酒屋に同行した覚えは希薄だが、昼の「合盛りが盛ん」の記憶は鮮明だ。

男二人、会話を言ってもお定まりの「仕事はどうだ」程度だった。父の心情は余辺にあつたのか。手がかった息子が曲がりなりにも社会人になったという安堵感だったのだろうか。

その店が再開発事業で姿を消したときには大いに落胆したが、ほどなく赤羽橋で復活してから、毎年何回か訪れることを無上の楽しみとしていた。

それだけに、先日久しぶりに足を向けて発見した店頭の張り紙は衝撃的だった。「設備の老朽化や店主の高齢化によりやむを得ず閉店を決定いたしました」。長年お世話になった店の方に礼を言う暇もなく、社会に出て今年で50年目。長かったような、短かったような。

調布市長

長友貴樹

